

進路だより号外

2017～2018 第9号

発行
栃木県立盲学校
進路指導部

グリット「GRIT」とは???

保護者の皆さん、こんにちは。11月に高等部生は実習期間を迎え、各自が自己の進路決定に向けて様々な事業所で実習を重ねてきました。何度か実習を行ってきた場所、初めて実習を行う場所、生徒によって行き先や活動は異なり、外部からの評価もまたいろいろです。実習は高等部からの行事ですが、そこに至るまでには幼小学部期からの積み重ねが大事です。実習報告会が12月18日(月)に行われますので、是非先輩たちの発表を見に来て、今後の参考にしてください。

今回の号外は、決して有効な進路情報、といった類いのものではありません。ですから、読み流していただいても結構です。ただ、どなたかお一人でも、「なるほどな」と感じていただけたなら嬉しいです。

去る9月末と10月末の2回、外部講師を招き、高等部普通科1組生徒を対象に「ビジネスマナー講習会」が行われました。1回目の講習では、「はい」という返事の持つ効果の大きさ、笑顔の作り方、正しい姿勢でのお辞儀といった、対人関係で基本中の基本となる項目について、実践を交えて教えていただきました。

1ヶ月後、2回目の学習会冒頭で、「この1ヶ月、教えていただいたことを何か1つでも実践してきたか」の問いに対して、全ての生徒が無反応でした。学習会後の打合せで講師から、「誰かひとりくらい、取り組んでいると自信を持って言ってくれればと期待していた」と率直に言われました。

さて、先日何気なくラジオを聞いていると、聞き慣れない言葉が耳に飛び込んできました。その言葉は「グリット」。初めはさして気にも留めずに聞いていましたが、だんだんと「どうやらこれはとても大事なことを言っているのではないか」という気がしてきました。「GRIT」を英和辞典で調べると、「困難にもくじけない勇気、気概、闘志」「歯を食いしばる」という意味でした。ラジオでは、「ビジネスで成功する人の秘訣」「デキるビジネスマンになるには」というテーマに引っかけてこの言葉を紹介していましたが、私はこれを聞きながら先日の講習会のことを思い出していました。

ビジネスの世界での「グリット」は、「やりぬく力」という風に解釈されているようです。困難なこと、苦しいこと、気が進まないことを長期間にわたって、辛抱強くやり抜ける力ということが、スキルや資格といったものと同様に重要視されつつある、ということのようです。私は、「これはビジネスの世界に限った話ではない。学校生活、家庭生活でも何かをやり抜くということは大切なはず。講習会で教えていただいたことを1つでも『やり抜く』ことで、生徒は大きな財産を手に入れるんじゃないか」と改めて思いました。

例えば、「正しいお辞儀」。講師によれば、「正しいお辞儀」とは、

腰を支点に上半身を45度傾け、背中と首のラインをまっすぐに保ったまま2秒静止する指先はまっすぐに伸ばし、男子はズボンの縫い目に沿わせ、女子は下腹部の前で軽く組む

のだそうです。授業が1日6コマあるとして、お辞儀をする機会は12回あります。毎時間正しいお辞儀をし続けることは確かに面倒だし、気恥ずかしいものでもあると思います。「無駄だ」と言う人もいるでしょう、それも案外多く。しかし、毎日1年間でもこれをやり抜いたときに得られるものは、実は結構大きいのではないのでしょうか。私がこのことを口酸っぱく言い続けてきた高等部3年生が、実習先の接客場面で自然に正しいお辞儀をしている姿を見て、確信しました。

日頃生徒と関わっている中でよく聞かれる言葉に、「無理」とか「限界」といったものがあります。これらは自己の限界を安易に設定し、困難や難解な問題から逃れるために自己防衛的に発せられる言葉なのでしょう。確かに、自分のできないことを「できない」と言えることは、特に障害者就労の場面等では重要なことです。しかし、日頃発せられるのは、「無駄なこと」「面白くもないこと」を避けようとする意識から出てくる安易な逃げの言葉なのではないのでしょうか。果たして、生徒たちには「もう無理だ」という言葉が出てくるほどに、歯を食いしばった経験があるのでしょうか。

楽しいことや趣味であれば、やり抜くことはたやすいことです。生活に彩りを添えるためにも趣味を持つことは必要ですが、それを毎日続けたからといって、「グリット」には結びつかない。この言葉のキモはやはり、「困難」「気が進まない」という部分でしょう。毎時間の礼の仕方、目上の人と話すときの返事、家での手伝い等、決して「面白くもないこと」をし続けるチャンスはいくらでも転がっています。そのことを「無駄だ」と笑うより、まずは何か1つでも、自分にできる「面白くもないこと」を見つけて、取り組んでみてはどうでしょう。私も子どもたちに指導する立場であるからには、生活の中にグリットを取り入れるようにしています。

最後に、「グリット」に関するいくつかの言葉を紹介します。大学教授のような識者の言葉もあれば、身近な教員の言葉もあります。参考にしてみてください。

- 現代は「効率」や「合理性」が重視され、「めんどくさいこと」「答えのすぐ出ないこと」は敬遠される。しかし、効率を最優先し、最短距離で解を求めるのは「AI」の仕事。人間の価値は、いかに「非効率にコミットできるか」にあるのではないだろうか。
- 「勉強でも運動でも、それに対して燃える、熱くなる、熱中する、てのは大事なことだと思っただよね。でも、今の生徒はそれができない。暑苦しい、かっこ悪い、ってバカにしたように言われてしまう。」
- ビジネスで成功を収める人の共通項は、外見の良さでも、身体的能力の差でもありません。これこそが「グリット」です。「グリット」とは、物事に対する情熱であり、また何かの目的を達成するためにとつもなく長い時間、継続的に粘り強く努力することによって、物事を最後までやり遂げる力のことです。グリットはスタミナを必要とします。1つの夢や目標を実現するために毎日毎日、朝から晩まで、夢中になって頑張り続けることです。それも1週間、1ヶ月といった短期間ではありません。数年間ずーっとです。頑張っ、頑張っ努力し続ける、そうすることで、やがて夢や目標が現実のものとなるのです。グリットは短距離走ではありません。長距離走なのです。
- 物事は10年続けてようやく一人前。